

図工・美術科学習指導研究委員会

一 研究テーマ

子どもたちが生き生きと表現活動するための学習指導のあり方
～地域との連携を目指して～

二 テーマ設定の理由

生き生きと表現活動をするには良い題材が必要となる。教科書に掲載されている題材はもちろんだが、子どもたちが暮らす地域、また、広く国内を見渡すと伝統的な工芸品、その地域に根付いている生活必需品、日々見ている風景など、図工美術の題材になるものがたくさんある。またその表現活動を支える指導者の力も必要になる。

そこで図工・美術学習指導研究委員会では、昨年度に引き続き「地域との連携をめざして」として、地域に根ざした市立美術館の方とのつながりをつくること、生き生きと表現するための学習活動を支えるひとつになるのではないかととらえ、本テーマを設定し、地域資源を活用した学校の授業のあり方を実践的に考えることで研究を進める形とした。

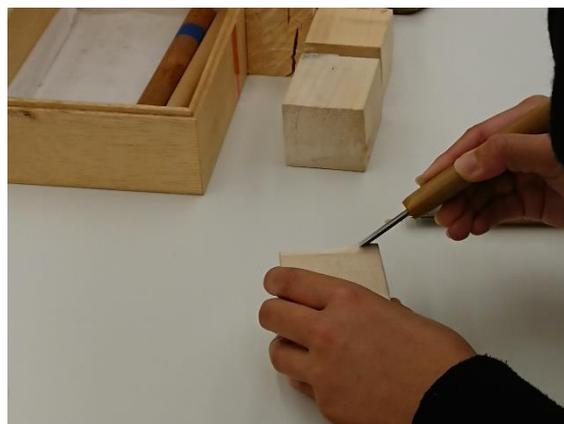
三 研究の経過

- 第1回委員会 4月30日（木）総委員会（中止）
- 第2回委員会 7月13日（月）情報交換会(臨時休校中の課題について)、今後の打ち合わせ
- 第3回委員会 9月9日（水）本原小学校 研究授業参観（中止）
- 第4回委員会 10月9日（金）見学研修（上田市立美術館）
- 第5回委員会 11月26日（木）総委員会（中止）

四 研究の内容

- 1 美術の専門家である美術館学芸員の方の学校教育への参加について考える。
- 2 学芸員の方と先生方が実際に会い、郷土の美術家たちの作品に学びながら、教材研究を行う。
- 3 彫刻刀の扱い方や研ぎ方等について、専門家を講師に招きご指導いただく。

五 研究のまとめと課題



○成果

- ・今年度は、コロナウイルス感染防止のため、授業研究校の授業参観等を行うことができなかったが、休校中の家庭学習の課題について情報交換を行うなど、今後再び休校になった時に備えて研修を行うことができた。
- ・上田市立美術館で行った研修では、彫刻刀について徳武先生にご指導いただき、児童生徒への版画指導へ実践的にいかせる研修となった。例えば、上手く彫れない時に、彫刻刀の扱い方や研ぎ方が原因であったり、彫る方向（木目）が原因であったりと、多様な要因を考えなければならないことを学んだ。
- ・実際に彫刻刀で彫ったり、彫刻刀を研いだりするという実技研修であったため、体感を通して学ぶことができた。
- ・美術館に展示されている作品を鑑賞したことで、石井鶴三をはじめとする郷土の美術家たちをより身近に感じることができた。

●課題

- ・学校に美術館学芸員を派遣していただくなど、学校とのつながりを継続してもてるような美術館の活用のあり方を研究していく必要がある。
- ・図工・美術委員会のメンバーだけでなく、上小の教員たちが美術館から技能や知識を学べるよう、研修機会を各支会などで設けていく。

六 図工・美術学習指導研究委員

上野 勝裕校長先生（川辺小）	太田 咲先生（本原小）
羽田 光先生（東部中）	横林 弥恵先生（北御牧小）
瓜生 まどか先生（丸子中）	池田 明朗（丸子中央小）